

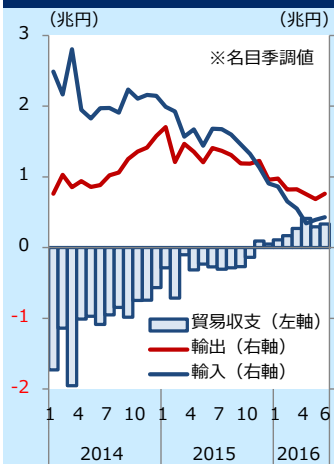
日本：貿易統計（2016年6月）

— 貿易収支の改善持続、16年上半期は5年半ぶりの黒字 —

MRI Daily Economic Points

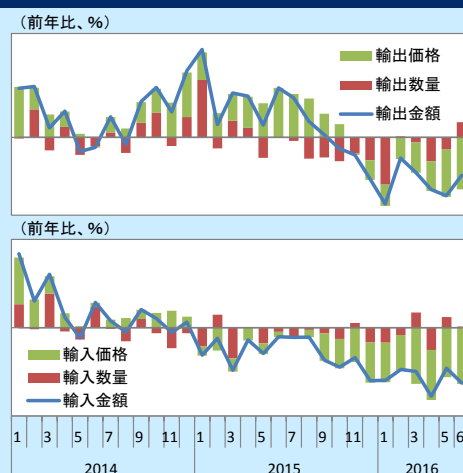
July 25, 2016

貿易収支



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

輸出入金額の寄与分解

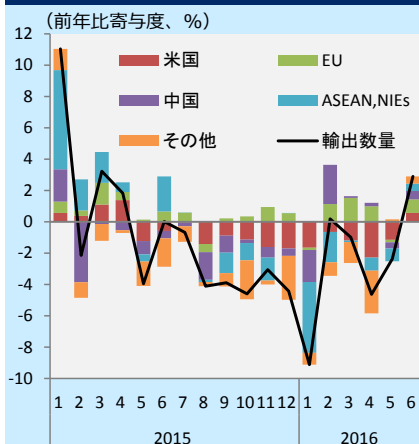


評価ポイント

16年6月の結果

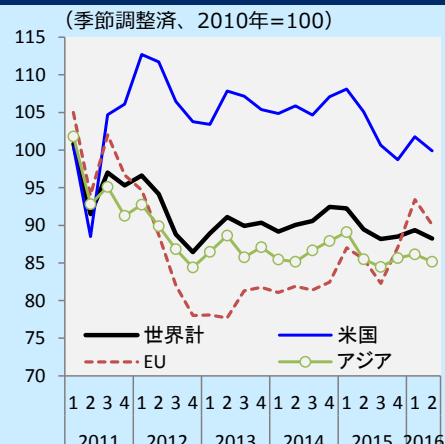
- 16年6月の貿易統計は、輸出が前年比▲7.4%と9ヶ月連続で減少。輸入も同▲18.8%と18ヶ月連続で減少した。貿易収支（季節調整値）は、+3,350億円と8ヶ月連続の黒字。
- 16年上半期の貿易収支（季節調整値）は+15,927億円となり、震災前の10年下半期以来、5年半ぶりの黒字となった。
- 6月の輸出金額の内訳をみると、輸出数量は+2.9%とプラスに転じたものの、輸出価格が前年比▲10.0%の低下となった。輸出価格は、8ヶ月連続のマイナスであり、資源価格の下落は一服しつつあるものの、円高の影響が大きいとみられる。
- 輸入金額は減少が続いている。6月の輸入数量は+0.4%と小幅のプラスとなり2ヶ月連続の増加となったものの、前年対比での原油安により引き続き輸入価格の下落が続いている。
- 地域別の輸出数量をみると、6月は米国（前年比+2.9%）、EU（同+8.0%）、中国（同+3.0%）といずれの地域においても前年比プラスとなった。財別では、設備投資の低調さを背景に一般機械輸出の低調は続くものの、自動車関連輸出が伸びを牽引し、米国、EU、中国向け輸出のプラスに寄与している。

地域別輸出数量寄与分解



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

輸出数量（季節調整値）



※三菱総合研究所による季節調整値

基調判断と今後の流れ

- 足元の輸出は、均してみれば横ばい圏内で推移している。
- 先行きは、米国経済の堅調持続がプラス材料となるほか、中国向け輸出も、中国の景気刺激策の下支えもあって下押し寄与は縮小していくとみられる。ただし円高による輸出環境の悪化が重石となることから、輸出全体としては緩やかなペースでの回復にとどまると見込む。
- 世界経済は引き続き不安定な状況にある。米国の利上げ時期や米国大統領選の行方、英国のEU離脱問題の今後の展開によっては、海外経済の悪化や一段の円高が進行し、輸出の下振れ要因となる可能性がある。